



保育北九州

平成27年1月1日
 発行 北九州市保育所連盟
 〒805-0019 北九州市八幡東区
 中央2丁目1-1
 (レインボープラザ5F)
 電話 (093)661-2153番
 発行人 平 沢 茂
 編集人 日 野 真 人

2015 **178**



(5歳児の作品)

〈写真提供 戸畑 支部〉

表紙	1
視点・年頭所感	2
視点・役員あいさつ	3
保育士会40周年記念座談会	4~7
第52回北九州市保育研修大会	8~9
研修報告	10
各支部近況	11
雑感・編集後記	12

ぼくたちと 若戸大橋

「社会福祉の原点は人々の幸せを支えること」

衆議院議員選挙は予想通り自民党の圧勝だった。対する野党の準備が整わない中という電撃解散は何やら真珠湾奇襲作戦を思い出したが、余りにも腑甲斐無かった民主党政権への信頼回復には、かなりの時間を要することもあるだろう。

視点

アベノミクス・延期された一年半後の消費税アップ・集団的自衛権等についても、民意を得たということになるであろうが、沖縄の自民全滅、戦後最低という投票率にも国民の思いが込められていることを謙虚に受け止めて欲しいものである。

さて、我々保育関係者としては、来年度から施行される子ども子育て新システムが「幼稚園」と「保育所」の機能一元化を主眼とするものなら何故「教育」と「保育」の分断化を図ったのか、又保育研究所も挙げているように、先進国の中でも際立つ貧困率の高さ、人間の根っこを育てる保育の重要性を考え、公的責任強化の方向で新制度を構築すべきであるのに何故保育の市場化への道を選んだのか、思慮なき規制緩和による保育の市場化は当然、選択と競争を生じ、経営者の関心事は、如何に利潤をあげるか、如何に生き残るかに寄せられ、そのために人件費の抑制が生れ、保育者の経験の蓄積が困難となり、保育の専門性が薄れることは自明であろう。本政策の実施に懸念をもつのはこのためである。

新年のご挨拶

(二社) 北九州市保育所連盟

会長 平 沢 茂



これからの保育の働きは、多様化します。

- ・ 保育時間のこと
- ・ 小規模保育事業のこと
- ・ 保育士及び他の職員の処遇に関する

その確保と質の向上のことなど事業を実施していく中で課題も山積することでしょう。

しかし、本連盟は、時代の変化・制度の変革をしっかりと受け止め是々非々を明確にし、明日を担う子どもたちの視点に立ち続け、子どもたちの利益を心に深く留め、また北九州市との「車の両輪」であることを強固にさせていただきながら、会員の皆様方とご一緒に委ねられた保育の業を進めさせていただきたいと願ってやみません。

本年も会員の皆様方のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。皆様方のご健康とご健闘を祈念申し上げます。年頭にあたりご挨拶申し上げます。

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、連盟における様々な事業にご協力ご尽力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

さて、新しい年、国においては財源の確保が未確定のまま「子ども子育て支援新制度」による事業計画を実施しようとしています。

これを受けて、昨年末は、施設に

更には、昭和二十六年に創設された社会福祉法人制度は「公立」とは異り、民間活力と公共性、安定性の両立を図るため、非営利として生まれたもので、民間活力の導入、介護保険導入以来、「イコールフィッティング」などのキーワードまで生んだ福祉観の変質への批判とは区別されるべきもので、万一そうであれば、この際しっかりと自省し、社会福祉法人のなすべき仕事の人々の幸せを支えるものであることを主柱とする原点に立ち帰らなければならぬ。

史上初体験の少子化・人口減は不可避であることの現実をしっかりと直視し、子育て支援に全力投球するのが、我々の責務であるが、将来の良き市民としての根っこを育てることを重視する時、自ら育つ力をプログラムされた子どもたちが、その力を発揮するためには、彼らの心に愛されていることを実感させ、そこから人間に対する信頼感が生じ、安らぎの心を得ることによってのみ為されることをもう一度確認しなければならぬ。ノーベル平和賞受賞のマララさんの主張する教育を受ける前段階として子どもの愛される権利を重視したい。

人偏に憂うと書いて優しいと読む。又、忙しいという字は心を止ぼすと書く。

子どもの心としっかりと向き合う時間と気持ちのゆとり、子どもへの優しい愛情、それに加わる思慮深い規制こそが人間の根っここの育ちを確実にし、明るい未来の社会を保障するものであるというミクロ的視点を持つ政治であることを期待したい。

藤岡 佐規子

門司支部

支部長 西 敏昭

保育士会長 松本由紀子

小倉北支部

支部長 岡村 信久

保育士会長 福田みつよ

若松支部

支部長 松尾 副充

保育士会長 重岡真美子



会長

平沢 茂

副会長

山本 文雄

北野 久美

保育士会副会長

杉園 弘充

中村 尋子

黒田 玲子

顧問

山田 智子

西村 賢了

藤岡 佐規子

深川 信教

北野 一恵

本年も宜しく
お願いいたします

小倉南支部

支部長 藤井 英和

保育士会長 山崎 啓子

八幡西支部

支部長 山本 文雄

保育士会長 西澤 満子

八幡東支部

支部長 杉園 弘充

保育士会長 原 貴代美



北九州市保育士会 四十周年記念座談会

平成二十六年十一月十一日午後三時

於…ホテルアルモニーサンク会議室



△司会▽

保育北九州編集長…日野 真人
(本文中は司会)

△司会▽本日は、お集まり下さいます。北九州市保育士会四十周年を記念しての座談会です。どうぞこれまでの保育の道を語って頂きたく存じます。またこの座談会に青年会議の山本先生にも参加していただいておりますのは、四十周年を迎えた保育士会の歴史の意義や方向性を、職制や年齢の違いを超えて話したいと考えてのことです。まず、保育士としての歴史の中で印象深かったことを教えてください。

△藤岡▽産婦人科病院に勤務する助産師さんの子どもさんを預かっていた時のことでした。その子どもさんが四十度以上の熱を出されたので、すぐにお迎えをお

△参加者▽
前北九州市保育所連盟会長
元全国保育士会会長…藤岡佐規子 (本文中は藤岡)
北九州市保育士会会長…北野 久美 (本文中は北野)
北九州市私立保育園連盟青年会議
会長…山本 博文 (本文中は山本)



△北野▽わたしは保育士としてどう

だ、と心が奮い立ったことが思い出されます。

進んで行くべきか、その指針にさせていたでいる藤岡先生の言葉があります。これは「話題の力タログ」というコラムの中で書かれている言葉でもあるのですが、藤岡先生はその中で「保育者が働く母親の悩みや苦しみに共感せず、子どもの立場からのみ親への要求を出しても子どもの良い育ちにはつながりません」と語っておられました。この言葉が深く胸に浸みわたります。仕事も子育ても、ともにいきいきと行える社会に変容させていく力になりたいと思ったのです。

△山本▽わたしは四十代半ばです

が、男女共同参画社会—男女がジェンダーを超えて共に手を携えていく社会が大切と教えられてきました。そうした中で保育士会の皆様方の努力を見るにつれ、あらためてその重要性に気づかされました。

△司会▽では保育士会を通じての、

忘れられない方との出会いについて教えてください。



△藤岡▽わたしは昭和四十五年兵庫

県有馬温泉で行われた全国大会での出会いが忘れられません。分科会でわたしが司会をしておりました時の助言者であった方との出会いです。

△北野▽待井和江先生との出会いです。

△藤岡▽そうです。当時大阪府立大学にいらつしゃった待井先生から、黎明期にあった乳児保育を小児保健学や小児栄養学、乳幼児心理学などを通して、乳児保育学——保育学へと繋がる学問的な取り組みを教えていただき

△北野▽北九州市における発達調査の始まりとなる出会いと聞かせていただいております。

△藤岡▽待井先生との出会いは、全国に先駆けて、子どもたちの発達調査研究に取り組みきつかけとなりました。中村尋子先生と井上初恵先生は、この研究のために統計学の勉強を一から始められたのですよ。これは調査の正確さを担保する学問的なアプローチでもありません。この研究時には待井先生のご指導を大いに仰ぎました。

△北野▽この調査研究はことばの発達研究に広がり、八年がかりで続けられ、保育学会でも発表されたものですね。

△藤岡▽全国保母会（当時）の植山

つる研究奨励基金を受けて実施した実践研究でもありましたから、わたしたちのメンバーの一人である黒岩和子先生が全国大会で発表しました。その時の助言者である近藤薫樹先生から「保育所の研究もここまで立派になったのか。本当に今昔の感がある」とお褒めの言葉を頂戴しました。

△山本▽北九州市保育士会から始まった調査研究は、その重

要性から全国各地にも広がったと聞いております。現に全国青年会議でも調査研究の研修会が開かれています。また社会への提言においても、その信憑性を担保する調査研究が必要であるという認識で一致するようになりました。

△司会▽北野先生が保育士会に入られた時、最初はどんな印象を受けられましたか？

△北野▽わたしが保育士会に入った時、すでに藤岡先生は会長でした。藤岡先生は昭和四十八年にすでに全国の副会長になっておられましたから、もう雲の上の人でしたね。そんな藤岡先生のお話を聞いていて、あること

に気づいたんです。何だと思えます？

△山本▽難しいですね。藤岡先生が全国の副会長になられた——昭和四十八年頃、わたしはまだ小学校にも行っておりませんでしたから（笑）

△北野▽藤岡先生は決して「わたしは……をした」とは言わないのですよ。必ず「わたしたちは……をした」と言われるのです。必ず組織のこととお話しされておられるのですよ。また「……させてください」という使い方もよくされて

いました。この言葉からも、藤岡先生がどれほど組織を大事にされてこられたかがうかがえると思うんですね。

△司会▽たしかに思いは言葉に出てきますよね。

△北野▽ですから、わたしたち——後に続く保育者は砂利道ではなく、多くの先輩方の御苦労と研鑽によって舗装された道を歩んでこさせて頂いたと感じています。

△山本▽そのことはわたしも同じように感じています。われわれ北九州の青年会議も初代西村良樹先生や二代橋原智司先生、それに橋原淳信全

私保連副会長などの諸先輩方の御苦労によって今の組織があるのだと思っております。ですが、そのことに感謝するだけではいけないと思うのです。

△北野▽今度はわれわれが、先輩方から受けた恩を返して行かねばならないですよ。

△山本▽そうですね。

△藤岡▽そのことはわたしたちも大いに期待しています。と同時に「大人よ謙虚であれ」ということも忘れてはならないでしょう。われわれは事を為す時、常に視点を子どもたちに当ててきました。しかし、それは同時に「本当に子どもたちに視点を当てているのか？ 大人の勝手な思い込みではないのか」との自問自答する謙虚さも常に併せ持つ必要があると思えますね。

△北野▽藤岡先生は「保育」に対して常に畏敬の念をもって来られたと感じます。われわれもその思いは忘れてはならないと肝に銘じています。

△司会▽藤岡先生、もう少しわれわれ後進へ期待されておられることをお話しくださいませんか？

△藤岡▽かつて若い日に学んだ玉川大学の故小原国芳学長から

「初等教育は幹、中等教育は枝、保育は根つ子を育てる」とお聞かせ頂いたことがあります。まさしく保育の重要性を表した言葉だと思います。そのことを考えた時、これからは保育への社会的な認識を向上させていかねばならないと思います。このことには保育者の地位向上も含まれていると思います。また公私格差の是正もその範疇にあると思います。つまりこれからの保育者への願いは、現状という殻を打ち破れということです。

△北野▽保育士会だけでなく、他の団体とも手を携えて力を合わせてやっていく必要があると思えますし、北九州の場合はそれが出来ている希有な場所であると思えます。

△藤岡▽故西村法昭先生は、北九州の子どもについては公立も私立も変わりがあったはならない。保育士も園長も同じ保育の道を歩むパートナーとして、みんな一緒に保育事業の発展を進めようと努力されました。西村法

昭先生が政党について「わたしたちは日本子ども党なんだ。子どもたちの為の政策を大事にしてくれる政党が仲間なのだ」と仰っておられたのが印象的です。本当に保育の道一筋の先生でした。

△北野▽まさしく保育道ですね。

△藤岡▽「道」とは、人や物が通るべきところであり、宇宙自然の普遍的法則や根元的実在、道徳的な規範、美や真実の根元などを広く意味する中国における哲学用語なのですが、その「道」を保育につけて「保育道」とするならば、その道を過たずに進んでいかねばなりません。そう言う意味では、北野先生や山本先生のような若い方々に大いに期待しています。

△司会▽男性保育士の方々も随分と増えてきました。保育士会にも新しい風が吹いているのではありませんか？

△北野▽文化の違いが子どもを育てる活力になっていると思います。男性文化と女性文化、それぞれに違いがあるでしょうが、その違いこそが活力の源と感じています。

△山本▽もうすぐ青年会議九州ブロック北九州大会（平成二十六年十一月二十日、十一月二十一日）が行われます。その時に行われるパネルディスカッションのコーディネーターを、われわれが尊敬する北野先生にお願いしています。

△藤岡▽若い皆さんにお願いしたいのが、研修や研鑽を重ね、理論を身につけて保育道を進んで行ってほしいということですよ。まず学び、それを身につけ、獅子が吼えるがごとく社会に発信して行って欲しいのです。また、共に手を携えて北九州保育を作って来た北九州市との関係に於いても留意が必要でしょう。

△北野▽北九州市と保育所連盟とは、互いに密接に結び合っているやってきました。一歳児への職員配置が六対一から五対一に変わったことなど、北九州保育を象徴する、全国でも初めての素晴らしい試みでした。保育士の採用が難しい状況かもしれませんが、出来る限り子どもたちの処遇を理想に近づけようとしている市の努力は称賛に値することだと思えます。

す。

△山本▽こんな素晴らしい協力関係にある自治体は他にないと思います。

△藤岡▽われわれ保育関係者はこれから、子どもたちを守っていく者として声を発していかなければならないでしょうし、他の団体とも協調しながら、未来そのものである子どもたちの為にも立ち上がらねばなりません。

△山本▽いままで諸先輩たちが勝ち取ってきた——守り通してきた保育を、次はわれわれ後進の者が守っていかなければなりません。今までは諸先輩方が盾となって守ってきたくださった保育を、次は自分たちが盾となって守っていかなければならないと自覚を新たにしています。

△司会▽そう考えると身が引き締まる思いです。

△藤岡▽まずは今わたしたちがいる組織——保育関係者の集まりをしっかり結び合っていくことが大事です。

「縁」とは、別々であるものが糸によって結ばれ、一つになっっている姿、とお聞かせ頂いたことがあります。これからも保育士会のみならず、保育所連盟がよ

り強く結ばれていくことを願っています。

△北野▽保育士会の歴史が糸の一本になれば嬉しく思います。

△山本▽本日、いろいろなお話しをさせていただいて、青年会議もすっかり結ばれた仲間なのだとの思いを新たにしました。

△司会▽本日はありがとうございました。

以上文責：保育北九州編集長

日野真人



北九州市保育士会

結成四十周年記念コンサート並びに祝賀会

十一月二十九日。今から四十年前に北九州市保育士会（当時…保母会）が結成された日であり、平成十五年に保育士資格が国家資格化された記念すべき日でもあります。平成二十六年十一月二十九日——この記念すべき日に、北九州市保育士会は結成四十周年記念市民公開コンサート並びに祝賀会を、北九州国際会議場メインホールとリーガルイタルホテル小倉エンプライアールームにて、それぞれ行いました。祝賀会に先立ち行われた市民公開コンサート「中川ひろたかさんと うたおう！ あそぼう！」には六百名超の親子が集まり、歌って遊んで盛り上がりしました。続いて行われた祝賀会は、役員十三名が登壇し「保育の道」を合唱し幕を開けました。次に、主催者を代表して北野久美北九州市保育士会会長が、これまでの四十年を振り返って「藤岡佐規子初代会長や北野一恵二代会長などの先達に導かれながら、みなで覚悟・誇り・責任をもって活動してきました」と挨拶され、「われわれと

共にあった、保護者のみなさんや子どもたち、そして保育の仲間たち、今までの四十年間ありがとうございました」と謝辞を述べられ、汐見稔幸——白梅学園大学学長・東京大学名誉教授からのお祝いのメッセージを披露し、これからもみなで力を合わせていくと声高らかに締めくくられました。続いて、北橋健治北九州市長をはじめとする来賓の方々から祝辞を頂戴しました。祝電披露の後、感謝状・功労者感謝状・特別功労者感謝状の贈呈が行われました。特別功労者感謝状を受けられた藤岡佐規子初代会長が「将来の市民となる子どもたちの根っこを育てるためにも、わたしたちは専門職集団としての誇りを持っていきたい」と述べられました。続いて、北九州を代表するオペラ歌手の白川深雪さんが祝歌を披露してくださいました。祝宴に移ってから四十年を祝う人々の歓談する声がいつまでも会場に広がっていました。まさに保育士会——いや北九州すべての保育関係者が一つの輪となっっている象徴的な祝賀会となりました。

第52回 北九州市保育研修大会

この研修大会は去る十一月三・四日の両日、アルモニーク・ソレイユホールに約二千名の会員が参加して開催されました。以下、その概要をお知らせします。

第一日目 本大会

基調報告

「保育の道」

—子どもの傍らにある者として—
 (一社)北九州市保育所連盟
 副会長 北野久美

保育をめぐる状況について、全国保育協議会で出されている《重点五項目》をはじめ、共通理解がすすんでいるとお話がありました。二番目に北九州市子ども、子育て会議について説明がありました。これは他都市と比べても比較的早く設置され、条例に則り繰り返し議論が重ねられてきたことです。またアンケート調査から得た市民のニーズが

ベースとなり、来年度からの新制度が完成したと補足もありました。行政側も苦しい市の財政のなか、十分検討して下さいたのではないかと述べられました。国は七千億円の予算を子どもにかけたが、子育ての主語や主体はいつたい誰なのか、質より量になっていないか、保育に教育はないのか等々、様々な疑問は尽きないと疑問を呈された。子どもにとっての支援であるならば子どもの代弁者である私達も発言していく必要があるとも語られた。保護者の選択の幅が広がった等、耳触りの良い言葉を聞くがしかし、箱モノを増やすことが本当に大事なのか。二年後には定員割れになる保育所もあるのではないかと予想され、保育士の処遇改善も遅々として進まない、更に保護者の雇用側に保育所の標準保育時間が

を理由に長時間労働を要求されるのでは、親は子育てを楽しめるのか等と不安はつきない。養護と教育を一体化し、子ども達の生きる力を育み培うのが保育所。柏女霊峰先生も「実践しながら考え、検討していく、子どもの『今』が大事だということとは変わらない」と仰っている。組織を挙げてパブリックコメントを出していこうと締めくくられた。

基調講演

「北九州市保育の歩み半世紀」

—語り部として妻の今伝えておきたいこと—
 (二社)北九州市保育所連盟
 顧問 藤岡佐規子

北九州市の五市合併を縁として設立された北九州市保育士会の礎を築いたのは、故西村法昭先生の「組織は力なり」「保育は人なり」との思いからだったと語られた。

保育とはかけがえない只一つの命をうけて誕生した子どもたちのうちそのものである。その育ちを大事にするために、調査・研究という客観的材料をもとに予算を確保してき

た経過を述べられた。

明日の北九州の良き市民を育てる——その根っ子を育てるのが保育であるとも語られました。次に保育の質の保障に関して北九州市がこれまで歩んで来た歴史をお話してくださいました。子どもの根っ子を育てるために、保育士が誇りと喜びをもったいきいきさをどう保つかが大事である。それには、豊かな人間性と専門的知識、技術が必要である。また子育てふれあい交流プラザの設置により、母親の悩み等を電話を通じて知ることができ、園に持ち帰りその様子を皆知り、親心に寄り添う保育の力になっていきますとお話してくださいました。

最後に、保育という言葉の意味をもう一度問い直して、保育者がいきいきしさを保つのは、子どもたちの根っ子を育てる喜びと誇りであり、と教えてくださいました。親の利便性ばかり強調される新制度の中、子どもの心と育ちと命を、どうやって守って行くのか、問い直すことが必要ですとお話してくださいました。

最後にポーランドの小児科医であるコルチャック先生の言葉を紹介してくださいました。

記念講演

「子ども・子育て支援
新制度と私たちの保育
〜常に子どものために〜」
ジャーナリスト 猪熊 弘子氏

来年度から始まる新制度では、国は子育てを社会保障の一つと位置づけた。待機児童解消の為、量と質の拡充が目的であったが国の予算が立たず、どちらも不十分だったので、質より量を優先した。親の利便性を重視して進化した結果どうなるのか。親の労働状況によって子どもに格差が生まれ、貧困の再生産になるのではないかと？子どもの権利の視点が欠けるのではないかと？ワークライフバランスと逆行しているのではないかと？という懸念が生じる。

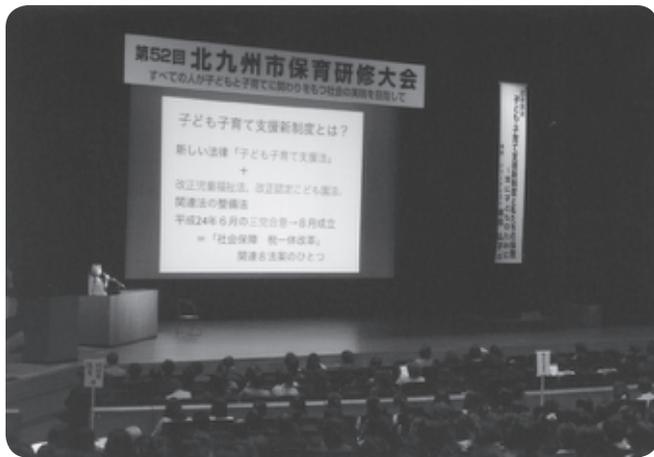
今子育て中の母はある意味で、勝ち組だという人がいた。就職活動(就活)をして社会にでたら次は婚姻活動(婚活)をしてパートナーを得る、次は妊娠活動(妊活)をして子どもを授かり。そして、最後の壁が保育活動(保活)だ。都市部では、それくらい待機児童が多いのだ。「妊娠したと分かったら、すぐに保育園の

見学に行く」というのが一般になってきているのが現状だ。

最近では、高架下にある保育園や交通量が多く窓の無い保育園、産廃施設の隣にある保育園など環境の悪い場所での保育が増えているが、子どもが豊かに育つのか疑問だ。

保育の質を支えるのは、最善の想いと最善の制度である。

全ての子ども達により良い保育が行き渡るように、新制度導入後も「育て直し」を諦めない。全ての子ども達に素晴らしい未来を！



第二日目 施設長特別研修会

行政説明

北九州市の保育行政について
子ども家庭局子ども家庭部保育課
課長 本 脇 尉 勝

新制度に向けた北九州市の保育行政についての説明があった。

子どものためではなく保護者にとつての制度ではないかという論調の中、行政もよりよい制度にしたいと『朝の挨拶運動』などでモチベーションを上げながら、日々奮闘している様子が伝わってきた。

新制度は前例がない大きな制度である。国・他都市の動静を考え、公平性・公正性を価値基準に置いて計画し、制度が作られた。

反対意見がある中、いかに納得してもらえる制度にするのが課題である。

講演

「これからの社会福祉法人と
社会福祉事業のあり方」
国立病院機構本部 企画役

古 都 賢 一 氏



福祉サービスにおける民間企業等の参入、福祉ニーズの多様化・複雑化と社会福祉法人を取り巻く環境は大きく変化しており、法人としての役割、経営の在り方の見直しが必要となつていることを詳しくお話しいただきました。

「福祉事業は途切れてはいけない」「国民の負託へしっかりと応えること」との言葉に地域福祉の拠点として保育所がどう貢献していくべきかを考えさせられました。

『子どもの幸せを第一に』という視点は揺らぐことなく努力していきたいと思えます。

研修報告

北九州市保育士会 結成四十周年記念祝賀会

十一月二十九日(土)に北九州市保育士会結成四十周年記念市民公開コンサート・北九州市保育士会結成四十周年記念祝賀会が行われました。

国際会議場で開催された市民公開コンサートは、保護者にも保育士にも人気のある「中川ひろたか」さんをお迎えしました。パネルシアターあり歌ありで子どもたちはステージに釘づけでした。子育て中の親子に楽しい時間を提供することができ、終了後は中川さんのサインをもらったり、記念撮影も大盛況でした。

リーガロイヤルホテルで行われた祝賀会は、常任委員による「保育の道」斉唱で始まり、多数の来賓をお迎えして華やかに開催されました。

式典では、保育士会の結成そしてその後の保育士会のためにご尽力いただいた藤岡佐規子名誉会長・北野一恵顧問に感謝の気持ちを受け取っていただき、保育士会がひとつになった思いを強くしました。

アトラクションの白川深雪さんは、私たちに馴染みのある童謡をオペラ調で披露していただき新鮮な感動を覚えました。

最後に行われた今年流行の「アナ雪」や「眠れる森の美女」のマレフィセントに扮した美女によるオークションは、会場が笑いで包まれ和やかに進められました。

四十周年という節目に、盛大に行われた記念行事に参加し、改めて北九州市保育士会の組織力を感じ、次の五十周年に向けて努力を重ねていこうと思う研修でした。

深町どんぐりのもり保育所
重岡 真美子

第48回全国保育士研究大会に (香川)参加して

高松市内三園の子ども達による、創作ダンス。おいで舞かがわで迎えられ、ヴァイオリニストの川井郁子氏による素晴らしい演奏と子ども達への贈り物をテーマにしたお話しとで緊張した心をほぐして頂きました。二日目の実践研究分科会。気になる子、障害のある子への保育。に参加しました。「子ども達の気持ちに添う保育士を目指して」「保育士と保護者が子どもに与える影響について保育日誌から読み解く」というテーマのもと、どうしたら子どもの気持ちに寄り添う保育



育が実践できるのかという点と地域が一体となつて継続的に具体的に検討してきた五年間の成果が発表されました。「先輩後輩

の立場を超えて話し合い研究分析してきた結果、他者の考え方を知りその幅を広げる事が、子どもの姿を多面的に見たり、気持ちを深く理解する事に繋がった事、又、自分の保育を振り返り、自己課題を職場の仲間と共に考える事で保育の資質向上につながるだけではなく保育士間のチームワーク作りにもつながった。」担任のみが抱え込まず様々な方面からの支援方法を考える事の大切さを改めて実感しました。

つばさ保育園
大森 恵 美

全国私立保育園連盟青年会議 第16回九州ブロック大会

十一月二十、二十一日に全国私立保育園青年会議、第十六回九州ブロック大会が開催されました。一日目は、開会式の後、三分科会に分かれ「保育制度について」「もつとすてきな保育園になろう」「理想の共同体から価値観の共同体へ」と題して講師の先生方が、子ども・子育て支援制度の現状を盛り込んだ報告がなされました。二日目は、内閣府の参事官・長田浩志氏より公定価格・認定こども園の加算の設定・利用者負担などの詳細な説明があり学ばせて頂きました。次に、青年会議のテーマでもある「未来への羅針盤」のパネルディスカッションでは、三名のパネラーの先生による未来をどうとらえるか?平成二十七年の四月は、どういう動きをしているかと題して教育、福祉、保育、人材育成とさまざまなキーワードが発表され、コーディネーターの先生が、まとめるのが大変なほど議論されゴールを決めてそれぞれの方法で解

決し航路を定めていくことで結ばれました。
曾根保育園
町田 義典

およろこび

- ☆瑞宝単光章
光法 保育園
主任保育士 橘 原悦子
- ☆全国私立保育園連盟会長表彰
花園 保育園
理事長 伊賀良 昌山
杉の実保育園
園長 岡本 エミ子
- ☆厚生労働大臣表彰(社会福祉功労者)
幸神 保育園
主任保育士 田中和子
- ☆全国保育協議会会長表彰
朽網保育園 園長 平井 栄二
若松コスモス保育所
所長 山田 智子
- 引野保育園 園長 坂井 浩司
- ☆西村法昭顕彰会表彰
専城乳児保育園
園長 村上 祐子
- 杉の実保育園
園長 岡本 エミ子
- 永犬丸保育所
所長 廣津 睦美

各支部近況
八幡西支部

今年には八幡区が東と西に分かれてから四十年にあたり、あちらこちらでイベントが開催されとても賑やかな八幡西区です。それに負けず劣らず元気いっぱい私たち八幡西支部は三十七ヶ所(園)と大所帯ですが、山本文雄支部長と西澤満子保育士会長のもと、チームワークがいいのが自慢です。それでは楽しくパワフルな八幡西支部の近況をお届けします。

八月に開催されたサマー研修会では、日頃の疲れを少しでも癒せるように……との思い



サマー研修

を込めて、ハワイアン風の曲が流れる中、担当スタッフがアロハシャツ姿で出迎えました。オープニングの黒崎祇園太鼓に始まり、福引大会、そしてよさこいチーム「華炎」による勇壮な演舞、八幡西支部の精鋭たちによるバンド演奏で、会場は盛り上がりました。しかし、この日のメインイベントは何と言っても2014サマーコレクション……三十五の保育園(所)がエントリし、保育材料を駆使したアイデア一杯の素敵なファッション



出前育児教室 保育士と遊ぶコーナー

が披露されました。ランウェイさながらにスポットライトを浴びるモデルたちの姿に、会場はフラッシュの嵐、感動と歓声に沸きかえ

り、とても楽しいひと時でした。

九月には、「コムシティ」「子どもの館」に於いて「第二十九回出前育児教室」と「保育まつり」が開催され、託児スペースが満員になるほどの申し込みに嬉しい悲鳴があがりました。一〇七世帯一三八名の参加者に藤岡佐規子名誉会長の「子どもの現在を大切に」の熱い思いと、八幡西支部の「おもてなし」の心が伝わり、大盛況のうちに終えることができました。

もちろん他の支部同様、研修にも力を入れています。「手作り玩具」「絵画」「造形」「わらべ歌」「気になる予」などの定例会の他に、七月には「心を育む絵画活動」をテーマに東京都さくらぎ保育園副園長宮林佳予先生から乳幼児絵画についての講義及び実践研修がありました。ひびんホールの限られたスペースの中で、絵を描いたり紙を切ったり童心に戻って制作を楽しみました。次の日、先生たちが作った「三匹のごぶた」「おたまじゃくしの101ちゃん」の指人形や「へるんぱのよつちえん」のお面にごこの園の子どもたちも大喜びでした。

十月には別府市で理事長・施設長研修が行われ、九州三団体協議会佐藤成「会長より」新制度をめぐる国の動向、これからの課題というテーマで講義を受けました。また、佐藤会長の計らいで別府市内の朝見保育園と山の

手保育園の二施設の豊かな自然環境、充実した設備などを視察させて頂き、これからの保育について考える良い機会となりました。

笑顔と元気いっぱいの八幡西支部の近況をまだまだお伝えしたいところですが、紙面に限りがあるためここで終わらせて頂きます。どうぞ、皆さん八幡西区に遊びに来てくださ



出前育児教室 手作りおもちゃコーナー



(5歳児の作品)

おまつり たのしいな

雑感

『地域の中で生活出来ることへ感謝』

保育士になって、三十六年目が終わろうとしています。三十六年の間に、北九州市内各地への異動があり、二十六年四月の異動で、門司の自宅から徒歩十分弱のすみれ保育所に勤務するようになりました。ちなみに、北九州市内で勤務していないのは、若松区だけです。

保育所が自宅に近い、と言うことは、日常の行動範囲において、保育所の子ども達、保護者の方々に遭遇する確率が高いということですが、はじめは、そのことに抵抗がありました。が、仕事帰りに立ち寄ったスーパーや歯科医院、日曜日の開店セールなど、予想以上に色々な場所で、保育所の親子に出会います。最近では、それが当たり前として楽しめるようになり、保育所の子ども達を見かけると、「○○ちゃん!」と、自分から声をかけるようになりました。

また、すみれ保育所は、自分が短大時代に実習を行った保育所であり、四月の入学式に来賓として出席した小学校は、自分自身が通い、卒業した小学校です。その他、市民センター（私が子どもの頃は、公民館でした）や、地域交流先の施設、散歩や遠足に行く公園など、子どもの頃に親しんだところばかりです。久しぶりに行くと、リニューアルされていたり、ほとんど変わっていないなかつたりと、現在の様子を見ること

が出来て嬉しく思うことがたくさんあります。異動していなければ、日々の忙しさに紛れて、その様子を見る機会はいつまでも訪れなかったことと思います。

その他、色々な場所で小学生の姿を見かけると、「保育所の卒園児かな?」「けがをしないで、元気に遊べると良いけれど?」「保育所の周りを散歩する高齢者の方を見かけると、「今日も元気でいらっしやるかな?」「よくお見かけする方だけけど?」など、今まで以上に、地域の方々のことが気になる日々です。保育所の周りは、隣の病院でリハビリをされている方々が歩くコースになっており、フェンス越しに「こんにちは!」と声をかけあつたりしています。「子ども達に声をかけて貰うと、リハビリに張り合いがでます」と言われることがあり、自然な交流の中で、子ども達の一声が役にたっているようです。

保育所の子ども達も、将来自分が住む地域から仕事に出かけたり、人生の節目で引越しをしたりすることと思います。地域の中で、家族や周りの人々に支えられて自分がある、ということを保育の中でしっかりと伝えていきたいと思えます。

すみれ保育所

岩崎里美

編集後記 —似ているけれど

生物の種間で、機能的・形態的に同じ役割を果たす形質が、それぞれ別の構造に由来して発達してきたことを相似（そうじ、英語: analogy）というそうである。昆虫の翅と鳥類の翼は空を飛ぶという機能は共通だが、昆虫の翅は外骨格の腹部背板が伸張してできた物であるのに対し、鳥類の翼は脊椎動物の前足が変形した物であり、その由来が別である。保育新制度下における保育所・幼稚園・認定こども園の違いについて考えてみた。子どもたちの育ちを支援していく施設という点では同じであろうが、出発点まで同じではない。戦後の焦土の中、「養護と教育が一体となった保育」のために、手に血豆をつくりながらも立ち上がった先達の思いを忘れてはならないだろう。建物がなければ廃材をもらってきて曲がった釘を叩いて伸ばして建て、自分たちは食わずとも子どもたちの給食を作ってきた保育者たちの「子どもたちは未来そのもの」という思い——願いを共に抱いて、そのような人々がわれわれの先達であったことを誇りとし、新制度に立ち向かっていきたい。

「保育北九州」編集長 日野真人